第5回福祉用具専門相談員研究大会 開催報告書

第5回福祉用具專門相談員研究大会実行委員会

第5回福祉用具専門相談員研究大会概要

【開催日】 令和6年6月19日(水)

【大会テーマ】 未来を支える福祉用具サービスの可能性 ~ ご利用者が自分らしく生きていくための福祉用具専門相談員の使命と役割 ~

【会 場】 千里ライフサイエンスセンター(大阪府豊中市新千里東町1-4-2)※オンライン併用

【主 催】 第5回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会

【共 催】 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会 一般社団法人日本福祉用具供給協会

【大 会 長】 記虎 孝年 (関西シルバーサービス協会 理事長)

【副 大 会 長】 小野木 孝二(一般社団法人日本福祉用具供給協会 理事長)

【大 会 概 要】 特別講演1題・口述発表48題

【参 加 者 数】 1,318名(現地参加406名、オンライン参加912名)

【後 援】 厚生労働省、大阪府福祉部

(公社) 大阪介護支援専門員協会、(公社) 大阪介護福祉士会、(公社) 大阪府看護協会、 (社福) 大阪府社会福祉協議会、(一財) 大阪府地域福祉推進財団、(一社) 回復期リハビ リテーション病棟協会、(公社)関西シルバーサービス協会、(一社)こうしゅくゼロ推進 協議会、国際医療福祉大学大学院、姿勢活動ケア研究会、(一財)JASPEC、(一社)シ ルバーサービス振興会、(公社)全国国民健康保険診療施設協議会、(一社)全国デイ・ケ ア協会、(一社)全国福祉用具人材育成協会、全国福祉用具相談・研修機関協議会、(公 社)全国老人福祉施設協議会、(公社)全国老人保健施設協会、(公財)テクノエイド協 会、(特非)東京都介護支援専門員研究協議会、(一社)ナチュラルハートフルケアネット ワーク、(公社)日本医師会、(一社)日本介護支援専門員協会、(公社)日本介護福祉士 会、(一社)日本義肢協会、(公社)日本義肢装具士協会、(一社)日本車椅子シーティン グ協会、(一財) 日本車椅子シーティング財団、(一社) 日本ケアマネジメント学会、(一 社) 日本言語聴覚士協会、(一社) 日本在宅介護協会、(一社) 日本作業療法士協会、(公 社) 日本社会福祉士会、(一社) 日本褥瘡学会、(一社) 日本生活支援工学会、(一社) 日 本ノーリフト協会、(一社)日本福祉用具・生活支援用具協会、(公財)日本訪問看護財団、 (公社) 日本理学療法士協会、(公社) 日本リハビリテーション医学会、(特非) 日本リ ハビリテーション看護学会、(一社)日本リハビリテーション工学協会、(一社)日本リハ ビリテーション病院・施設協会、福祉用具プランナー研究ネットワーク※50音順

第5回福祉用具専門相談員研究大会 開催報告

大会テーマ:未来を支える福祉用具サービスの可能性

~ ご利用者が自分らしく生きていくための福祉用具専門相談員の使命と役割 ~

令和6年6月19日(水)、第5回福祉用具専門相談員研究大会を開催いたしました。

節目となる第5回大会は、初めて東京を離れ開催地を大阪に移すとともに、これまでと同様に遠方からも参加しやすいよう現地とオンラインのハイブリッドによる開催方式といたしました。その結果、全体としては1,318名、そのうち現地会場には過去最高となる406名の方々にご参加をいただき、盛会のうちに終えることができました。

開会にあたり、記虎大会長からは「団塊世代が後期高齢者となる 2025 年が目前に迫っており、2035 年には 85 歳以上の高齢者が 1 千万人を超えようとしている社会環境において、医療介護連携のなかで福祉用具専門相談員が果たすべき役割は更に重要さを増しており、未来においてもご利用者が自分らしく生きていくことを支えるべく、福祉用具専門相談員が互いに研鑽しあうこと、そして福祉用具サービスを発展させていくことが大切」と大会テーマに基づいた挨拶がありました。

そして、来賓を代表して厚生労働省高齢者支援課福祉用具・住宅改修指導官の内田正剛様と、大阪府福祉部高齢介護室介護支援課長の木本和伸様よりご祝辞を賜りました。

続く特別講演では、兵庫県立大学大学院社会科学研究科教授の筒井孝子様より、「福祉用 具の利用支援、評価システムの構築 - 介護場面の画像認識及び暗黙知の言語化及び定量 化による評価の今-」をテーマに、介護事故のデータベース化とAI分析による取り組み、 画像認識技術の活用による福祉用具利用の安全確保などについてご講演頂きました。

午後からは、全国から参加した福祉用具専門相談員によって、これまでで最も多い48演題の口述発表が3つの会場に分かれてそれぞれ実施されました。

第一会場では村山尚紀座長による口述1「地域・多職種連携・事業所の取組」、長倉寿子座長による口述4「科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組」の発表が行われました

第二会場では、竹崎修一座長による口述2「福祉用具安全利用に向けた取組」、西山輝之座長による口述5「効果的な福祉用具の利用促進・福祉用具メーカーとの連携・協働」の発表が行われました。

第三会場では、三浦徹座長による口述3「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例」、浜垣英司座長による口述6「地域・多職種連携・事業所の取組」の発表が行われました。

全ての演題発表が終了した後、第一会場においてシンポジウムが開催され、6名の座長がシンポジストを、コーディネーターを小野木孝二副大会長が務めました。シンポジウムでは各口述発表の総括に始まり、大会テーマを通した福祉用具専門相談員に対する提言や、次回大会に向けた問題提起やエールをいただきました。

最後に閉会式では、第6回大会の大会長を務める小野木副大会長が、第5回大会が無事終了したことに対する御礼と、第6回大会の予告及び抱負を述べて第5回大会は幕を閉じました。

10:00~10:30 【開会式】





開会挨拶 記虎孝年大会長





来賓挨拶 厚生労働省老健局高齢者支援課 内田 正剛 様





来賓挨拶 大阪府福祉部 高齡介護室 介護支援課 木本 和伸 様





【特別講演】 10:30~11:30

(第一会場)

講師 兵庫県立大学大学院 社会科学研究科 教授 筒井 孝子 氏 演題 福祉用具の利用支援、評価システムの構築

一介護場面の画像認識及び暗黙知の言語化及び定量化による評価の今一





【口述発表1】 12:50~14:15

(第一会場)

座長:公益社団法人大阪介護支援専門員協会 研修センター部長 村山 尚紀 氏

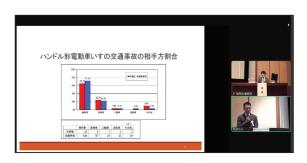




【口述発表2】 12:50~14:15

(第二会場)

座長:有限会社スマイルケア 右京営業所所長 竹﨑 修一 氏





【口述発表3】 12:50~14:15

(第一会場)

座長: 綜合メディカル株式会社 豊中営業所主任 三浦 徹 氏





【口述発表4】 14:35~16:00

(第一会場)

座長:兵庫県立リハビリテーション病院 教育・連携担当部長 長倉 寿子 氏





【口述発表5】 14:35~16:00

(第二会場)

座長:一般財団法人JASPEC 事業部部長 西山 輝之 氏





【口述発表6】 14:35~16:00

(第三会場)

座長:株式会社大黒ヘルスケアサービス 本社部門長 浜垣 英司氏





【ランチョンセミナー】 11:40~12:20

(第二・第三会場)

協賛:シーホネンス株式会社 パラマウントヘルスケア総合研究所

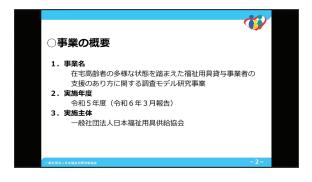


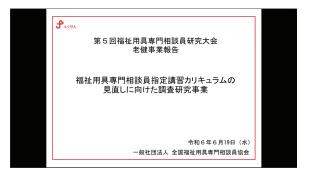


【事業報告】 アーカイブ配信

報告者:一般社団法人日本福祉用具供給協会

報告者:一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会





【メーカー展示協賛】 10:00~18:00

(ロビー)





【シンポジウム】 16:20~17:30

(第一会場)

コーディネーター: 小野木孝二副大会長

シンポジスト:村山座長、竹崎座長、三浦座長、長倉座長、西山座長、浜垣座長









【閉会式】 17:30~17:40

(第一会場)

閉会挨拶:小野木孝二副大会長





第5回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表 1 【地域・多職種連携・事業所の取組】

座長:村山 尚紀 氏 (公益社団法人大阪介護支援専門員協会 研修センター部長)

No.	発表者	所属	演題 (副題)
1	山本 麻未	株式会社ライフ・テクノサービス	災害時における福祉用具の必要性 (名張市社会福祉協議会による通所介護事業所の垂直避難訓練を 通して)
2	今井 儀	株式会社ジェー・シー・アイ	福祉用具×SDGs (福祉用具をハブに、地域・行政・事業所 三方良しを目指して)
3	勝田 由美子	一般社団法人ワイズ住環境研究所	福祉用具専門相談員に対する福祉住環境整備研修におけるスー パービジョンの試み
4	岩本 記一	アール医療専門職大学	介護保険利用者に対する福祉用具貸与サービスの導入に関する現 状と課題 一介護支援専門員を対象としたアンケート調査ー
5	上村 昌久	川村義肢株式会社	車椅子着座姿勢における不良座位姿勢の現状と課題
6	草木 沙織	株式会社ウィズ	脳梗塞の後遺症と向き合いながら、一人暮らし新生活に向けた チームアプローチ
7	中馬 季樹	株式会社カクイックスウィング	日本と香港の高齢社会事情について
8	太田樹生	株式会社トーカイ	40代左半身麻痺利用者に対する車いす移動、歩行支援に向けた 取り組み (課題はリハビリテーション職との連携で解決)

口述発表2【福祉用具安全利用に向けた取組】

座長: 竹﨑 修一 氏 (有限会社スマイルケア 右京営業所所長)

No.	発表者	所属	演題 (副題)
1	熊野 裕也	株式会社ひまわり	認知症利用者の歩行器の安全な利用継続における取組 (ADLの維持でご夫婦での生活が継続できるように)
2	広田 龍磨	株式会社石坪	ハンドル形電動車いす利用に伴う潜在リスクの再確認と開示・周知
3	栗田 彬斗	株式会社ヤマシタ	地域高齢者の介護予防促進事業として地域包括支援センター8箇所にて予防講座を開催 (AI歩行分析から転倒予防と福祉用具の利用)
4	石田 恭佑	川村義肢株式会社	義肢装具・福祉用具のトータルアプローチ
5	菅野 真央	株式会社同仁社	歩行車をより安全に利用するために
6	加藤 恭汰郎	株式会社大黒ヘルスケアサービス	レンタル手すり導入 (高齢者A氏の最大 13本の手すり事例)
7	則定 学	株式会社ウィズ	在宅利用者の電動車いす利用における現状と課題
8	杉本 考志	株式会社ヤマシタ	徘徊感知機器を利用する事による認知症高齢者の自立支援

第5回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表3【経験3年未満相談員の福祉用具導入事例】

座長:三浦 徹 氏 (綜合メディカル株式会社 豊中営業所主任)

No.	発表者	所属	演題(副題)
1	清水 隆	たかつき FJC つながり	福祉用具などを活用した幸齢住宅への改修計画について (安全・安心+心地良い 住空間をつくる)
2	山本 隆博	株式会社ヤサカ	福祉用具導入による住環境整備の現状と課題
3	大塚 美帆 大沼 考生	株式会社ヤマシタ	外スロープを用いた外出支援 (レンタル品設置後、介護保険での住宅改修と自治体支援事業に よる費用を抑えた工事の提案)
4	荒木 実璃	フランスベッド株式会社	がん末期患者への短期間における福祉用具導入での住環境整備
5	日笠 亜美	株式会社ウィズ	リハビリから体や心の緩和へ繋げる福祉用具の事例
6	岡本 直樹	株式会社ランダルコーポレーション	信頼される福祉用具専門相談員への道
7	竹原 優里奈	株式会社かくの木	利用者の望む在宅生活を支えるうえで大切なこと (生きていく上で重要な食事の環境整備の大切さ、多職種連携の 必要性)
8	鈴木 涼介	エイジライフ株式会社	利用者の思いと自立した生活を支える福祉用具 (生きるから活きるへ、点から線へ、)

口述発表4【科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組】

座長:長倉 寿子 氏 (社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団兵庫県立リハビリテーション中央病院 教育・連携担当部長)

No.	発表者	所属	演題(副題)	
1	鎌谷 勝輝	株式会社トーカイ	要支援認定高齢者への電動車いす導入による自立支援・QOL向上・ 重度化抑制に繋がった取り組み	
2	玉井 春貴	フランスベッド株式会社	転倒予防に向けた評価スケールの活用と住環境整備の提案 進行性核上性麻痺と向き合う家族の支援	
3	岡田 佑哉	株式会社トーカイ	特殊寝台導入と寝室変更が睡眠に与える影響の考察	
4	佐藤 碧美 水越 良行	株式会社ヤマシタ	「滑らせる介護」の普及活動	
5	大田 健介 福山 千秋	株式会社カクイックスウィング	理学療法士と福祉用具専門相談員の連携による移動支援のモニタ リングの実践 (歩行能力を数値化したことによる歩行器の適合性の見える化)	
6	小島 みさお	国際医療福祉大学大学院・ 東京都健康長寿医療センター研究所	福祉用具専門相談員における介護ロボットの積極的関与意向	
7	丸岡 達矢	株式会社ポート・リハビリサービス	高齢者施設における自動計測機能付きポータブルトイレ活用の検証	
8	角南 拓磨	日本基準寝具株式会社	過疎地域で挑む、「人材」を確保し、「介護」を維持するための取組 みについて	

第5回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表5【効果的な福祉用具の利用促進・福祉用具メーカーとの連携・協働】

座長:西山 輝之 氏 (一般財団法人JASPEC 事業部部長)

No.	発表者	所属	演題(副題)	
1	相澤 一也	株式会社かんきょう	「可能な限り最後まで一緒に過ごしたい」、家族の願いに応えた福 祉用具の導入	
2	大橋 強士	株式会社ウィードメディカル	認知症を患われている方が在宅生活を継続するための福祉用具導入 (見守り機能付き徘徊感知機器を利用した在宅支援)	
3	本田 来輝 木村 実央	株式会社ヤマシタ	ご本人のやりたいことを支える福祉用具と、そのためのトライ& エラー	
4	鈴木 健介 大河内 涼太	株式会社カラーズ	在宅介護の現場の声から生まれた介助型車椅子 COLORS®	
5	巌 英二 パラマウントヘルスケア総合研究所		要介護高齢者に対する特殊寝台の有用性の調査研究 (アンケートと操作履歴・離在床情報による特殊寝台の利用実態 の調査研究)	
6	飛澤 良亮	マッスル株式会社	テクノロジーを用いた移乗介助における介護者・要介護者の負担 軽減に関する一考察 (使用実態とその効果)	
7	田中 悠介	株式会社カクイックスウィング	介護ロボット導入から定着において高齢者施設が福祉用具専門相 談員に求めること	
8	竹本 良平	株式会社トップコーポレーション	GPS 付認知症徘徊感知機器の実状	

口述発表6【地域・多職種連携・事業所の取組】

座長: 浜垣 英司 氏 (株式会社大黒ヘルスケアサービス 本社部門長)

No.	発表者 所属		演題 (副題)
1	光本 健太	株式会社ヤマシタ	福祉用具と多職種連携による状態変化に合わせた環境整備
2	櫻田 諭	株式会社サンメディカル	左大腿部切断後、在宅復帰に向けたチームアプローチ (利用者の望む自立維持への支援)
3	出町 雄介 北嶋 慎也	エイジライフ株式会社	地域包括ケアシステムの中での地域連携と福祉用具専門相談員の 在り方
4	樋口 琉三	川村義肢株式会社	介護保険対象者への補装具としての電動車椅子製作事例
5	佐藤 翔太	株式会社かんきょう	福祉用具サービス導入率向上と社員育成への取り組み
6	鈴木 佑奈	安心ライフ株式会社	退院に伴う居住環境整備の事例
7	西澤 太郎 角山 実可子	有限会社スマイルケア	防災福祉まちづくりにおける福祉用具専門相談員が担う役割について (京都市菊浜学区での取り組みより)
8	信澤 知輝	フランスベッド株式会社	今後増加が見込まれる、認知症状のある地域住民を守るための徘 徊対策模擬訓練と福祉用具の活用

第5回福祉用具専門相談員研究大会 参加者アンケート集計結果

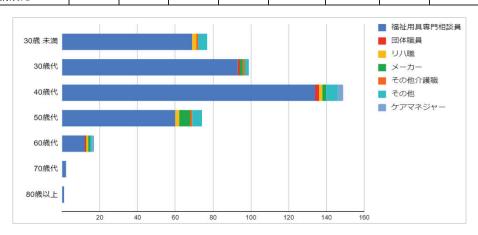
アンケート概要

■実施時期:2024年6月19日(水)~30日(日)

■調査方法:eメールによるwebアンケート様式の配布・回収 ■回収状況:発送数1,190人/回収数419人/回収率35.2%

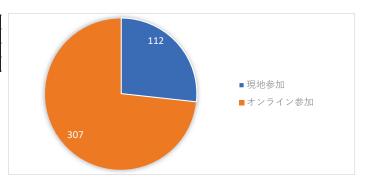
1. 回答者の基本属性について

	•	-							
	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	総計	構成比
福祉用具専門相談員	69	93	134	60	12	2	1	371	88.6%
団体職員		1	2		1			4	1.0%
リハ職	2		2	2	1			7	1.6%
メーカー		2	2	6	1			11	2.6%
その他介護職	1	1		1				3	0.7%
その他	5	2	6	5	1			19	4.5%
ケアマネジャー			3		1			4	1.0%
総計	77	99	149	74	17	2	1	419	100.0%
構成比	18.4%	23.6%	35.6%	17.7%	4.0%	0.5%	0.2%	100.0%	•



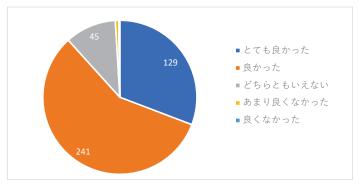
2. 参加方法について

	人数	構成比
現地参加	112	26.7%
オンライン参加	307	71.3%
総計	419	100.0%



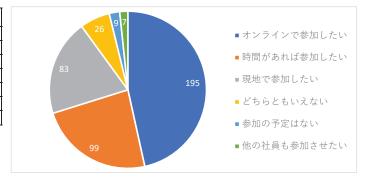
3. 全体の感想について

	人数	構成比
とても良かった	129	30.8%
良かった	241	57.5%
どちらともいえない	45	10.7%
あまり良くなかった	3	0.7%
良くなかった	1	0.3%
総計	419	100.0%



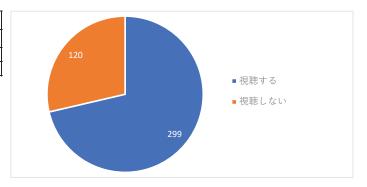
4. 次回の参加について

	人数	構成比
オンラインで参加したい	195	46.5%
時間があれば参加したい	99	23.6%
現地で参加したい	83	19.8%
どちらともいえない	26	6.2%
参加の予定はない	9	2.2%
他の社員も参加させたい	7	1.7%
総計	419	100.0%



5. アーカイブ配信について

	人数	構成比
視聴する	299	71.4%
視聴しない	120	28.6%
総計	419	100.0%



6. その他ご意見など(自由記述)

きめ細やかな対応とスムーズな運営がされていて良かった	11
今後のサービスの質向上の参考にしたい	8
オンラインで参加できてよかった	5
スケジュールがタイトに感じる	5
アーカイブ視聴できるのが良い	3
今後も東京以外の場所で開催してほしい	3
今後も継続してほしい	2
事例発表の時間をもう少し長くしてほしい、中身の濃い内容の発表が聴きたい	2
事例発表ではなく科学的な研究発表が増えると良い	2
オンライン配信で画面が暗く見えずらい箇所があった	1
オンライン配信で音が聞こえづらい箇所があった	1
発表時間を知らせるチャイムの音がオンライン上とても大きく気になった	1
発表に対して優秀賞、大賞などがあると、参加意欲がより増えると感じた	1
シンポジウムは大会の主テーマに関わる討論会などを企画してほしい	1
その他	11
総計	57

動画アーカイブ視聴画面(視聴期間:2024/6/25~9/30)



伊佐 進一(いさ しんいち)衆議院議員 伊藤 孝江(いとう たかえ)参議院議員 竹内 譲(たけうち ゆずる)衆議院議員 田村 憲久(たむら のりひさ)衆議院議員 古屋 範子(ふるや のりこ)衆議院議員 (五十章順)

動画アーカイブ

第1会場

開会式



開会式	00:00:04~
特別講演	00:19:28~

口述発表1「地域・多職種連携・事業所の取組」

座長:村山 尚紀氏(公益社団法人大阪介護支援専門員協会 研修センター部長)



山本 麻未	00:02:55~
今 井 儀	00:13:43~
勝田由美	00:23:59~
岩本 記一	00:34:52~
上村 昌久	00:45:59~
草木 沙織	00:56:38~
中馬 季樹	01:07:38~
太田 樹生	01:16:48~

口述発表4「科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組」

座長:長倉 寿子氏 (社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団兵庫県立リハビリテーション中央病院部長(教育・連携担当))



鎌谷 勝輝	00:01:40~
玉井 春貴	00:11:18~
岡田 佑哉	00:21:37~
水越 良行・佐藤 碧美	00:30:38~
大田 健介・福山 千秋	00:41:12~
小島 みさお	00:51:12~
丸岡 達矢	01:02:12~
角南 拓磨	01:14:12~

シンポジウム・閉会式



シンポジウム	00:01:36~
閉会式	01:00:02~

第2会場

口述発表 2 「福祉用具安全利用に向けた取組」

座長: 竹﨑 修一氏(有限会社スマイルケア 右京営業所所長)



熊野 裕也	00:01:32~
広田 龍磨	00:11:59~
栗田 彬斗	00:22:20~
石田 恭佑	00:32:23~
菅野 真央	00:41:39~
加藤 恭汰郎	00:50:28~
則定 学	01:00:32~
杉本 考志	01:11:34~

口述発表 5 「効果的な福祉用具の利用促進・福祉用具メーカーとの連携・協働」 座長:西山 輝之氏 (一般財団法人JASPEC 事業部部長)



相澤一也	00:01:38~
大橋 強士	00:11:13~
本田 来輝・木村 実央	00:20:44~
鈴木 健介・大河内 涼太	00:31:03~
版 英二	00:41:38~
飛澤 良亮	00:52:34~
飛澤 良亮 田中 悠介	00:52:34~ 01:02:40~

第3会場

口述発表3「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例」 座長:三浦 徹氏(綜合メディカル株式会社 豊中営業所主任)



清水 隆	00:01:14~
山本 隆博	00:11:32~
大塚 美帆・大沼 考生	00:21:55~
荒木 実璃	00:32:22~
日笠 亜美	00:41:34~
岡本 直樹	00:52:22~
竹原 優里奈	01:02:05~
鈴木 涼介	01:11:38~

口述発表 6 「地域・多職種連携・事業所の取組」

座長: 浜垣 英司氏 (株式会社大黒ヘルスケアサービス 本社部門長)



光本 健太	00:01:52~
櫻田 諭	00:11:51~
出町 雄介・北嶋 慎也	00:21:55~
樋口 琉三	00:32:34~
佐藤 翔太	00:42:43~
鈴木 佑奈	00:52:25~
西澤 太郎・角山 実可子	01:02:51~
信澤 知輝	01:13:03~

老健事業報告

老健事業報告



日本福祉用具供給協会	00:00:00~
全国福祉用具専門相談員協会	00:14:02~

Hews& Products

「第5回福祉用具専門相談員研究大会」大阪にて開催

/大会事務局

「第5回福祉用具専門相談員研究大会」が2024年6月19日に大阪にて開催する。 福祉用具を提供するにあたり用具の使用方法の説明等を行う専門職である福祉用具専門相談員が 更なる専門性向上を目指す取り組みの一環として開催される。

【日時】2024年6月19日 (水) 10:00~17:30

【会場】千里ライフサイエンスセンター (大阪府豊中市新千里東町1-4-2) ※オンライン併用

【主催】第5回福祉用具専門相談員研究大会 実行委員会

【共催】一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会、一般社団法人日本福祉用具供給協会

問合せ先/事務局 TEL:03-5418-7700 E-mail:info@zfssk.com

過去最多の演題エント 熱気あふれる大会に

福祉介護テクノプラス 2024 年 2 月号

ジルバー産業新聞

2024年(令和6年) 3月10日(日曜日) 日本 (8)

第5回福祉用具専門相談員研究大会 6月19日大阪で開催!

具専門相談を対し頃の扱い組み・

(チャレンジ発表) ―の5つ 瀬相談員の福祉用具導入事例

会観では、構成や関係表を 替え後の観念で、大阪なの では、奏いと傾似から、地から、 なりないの相は耐寒之余のを したに、リアル参加いたときた いったしているので、毎年日度で表示 いったしているので、毎年日度で表示 ただらので、毎年日度で表示 ただらので、毎年日度で表示 ただらので、毎年日度で表示 ただらので、毎年日度で表示 ただらので、毎年日度で表示 ただらので、毎年日度で表示 ただりるので、毎年日度で表示 ただり、

いた法人も多く、できるいたけ多くの方に発表で、いた法人も多く、できるいたける人の方に発表で、ころの方に発表で、ころの方に発表で、ころの方に発表が多ながられていた。

また街に含まれる多職種連携 いる。 ど、科学的根拠に基づいた福祉等人効果を検証する取り組みな 根拠をもった版組」 経金の

今回は施りすぐられだ機関発 質の向上が期待される。 ジャーとの我有も農務付けられ のモニタリング記録のチアマネ のモニタリング記録のチアマネ ジャーとの似態には「ご利 を目指す中での多職種協働におるなど、利用者の生む目標達成

し、前回(現地380人、オンラジンBCOD人、計一3~日人) を上回る多くの方々に襲ってい を上回る多くの方々に襲ってい ただきたい。自らの墜務の質を ただきたい。自らの墜務の質を さんに高めるのはずた。 ラインの100人、計一3~0人) 多職種連携へさ

ています。関係者の尽力に敬意 で表すよともに、全国から多く を表すよともに、全国から多く

大学院教授の筒井孝子氏が福祉特別講演では、兵庫県立大学 鈴木みどり実行委員長(ふくせん理事・日福協理事)

門相談員の研究大会への関心の 超さる応募があり、極独用品類というというとは発表で定機関数が 1月末で締め切られた発表工

や「安全利用に向けた取組」、 ・ で、一個社団男メーカーとの連携・ ・ 協働」など、福祉団男を取り巻 ともつの多様なテーマで発表さ なる。

加がある大会になる。 先駆けとして、多くの発表や参 先駆けとして、多くの発表や参 めて地方開催となる。今後、研

提・重要化防止や介護負担の軽 福祉用具專門相談員 研究大会 研究大会

ボットテクノロジーと の評価スケール、介護 の評価スケール、介護 用具の役割で位置づけを 元る見込みで「科学的

した。日本の高齢化は仲膜し、 要介帯リスの高い部域以上人 要介帯リスの高い部域以上人 をだとり、介護人材の不足が一 をだとり、介護人材の不足が一 そうとた中で、極私用器十一

質れた地域で自分らしく暮らしが、福祉用具専門相談員。住み

- W

インのハイブリットで開催され 死太会は、太阪で現地とオンラ 変大会は、太阪で現地とオンラ

20-9年の初開催では35 0人が参加。以降、同を重ね3 時に知識を拡大し、昨年の第4 原に知識を拡大し、昨年の第4 原に知識を拡大し、昨年の第4 用具専門相談員研究大会」が網 中し上げます。

ごれており、福北市具専門相談 では、「チェック」とA(見重し) たび(チェック)とA(見重し) 品類が用具質与・販売額 目のあり万棒好会」の とのまとめでは、「サービスの質の何上(FD) では、販売計画の作成! 費与・販売計画の作成! や「モンタリング」等の

024年度介護報酬改定におい てモニタリング実施時期を前確 化するための見直しが行われ、 報祉用具数与について、類批用 こういった指摘を踏まえ、2

ならない」と通常基準において定められています。この研究大会は、または自己価値、相互研究の絶好の場といえるでしょう。 得、維持・向上に努めなければ を応めに必要な知識、技能の修 を用具サービスの目的を達成す 「常に自己研鑽に励み、福

スキルアップが不可欠」「福祉用具専門相談員の 福祉用具専門相談質に対し

て業界全体でも共有し、東を実践しながら得られたば の体系化を進めていたださいで発展を、自身、白星素所、そし経験を、自身、白星素所、そし経験を、自身、白星素所、そし

記虎孝年 ||頼性向上| 大会長 、社会的地位 (関西シルバーサービス協会 理事長)

6月13日、「郷り回報を用具専門和議員が充大会」が大 医対機中の学生がインスセンターで開催され 高、東京以外での開催は今回が初かて、大会デーマに「未 本文さる選出信はプレンスのが様と、74日が青江から して生きていくなめの福生用の専門が開発の使命・40前 とできる。

地に向けてさらに重要になっている。

今大会は、24年改定で導入される福祉用具質択制の中で、こ

の専門権にして、サービス担当の専門権に協働のもとで、都祉用具連携と協働のもとで、都祉用具連携と協働のもとで、都祉用具

PDCAの実践が 厚生労働省 福祉用具・住宅改修指導官 サービスの質を高め

内田正剛氏

れまでの福祉用具数与の原則が を関係の中で試されるタイミングで開催される。

 対している。
 対している。
 対している。
 対している。
 対している。
 対している。
 対している。
 対している。
 でいる。
 でいる。
 でいる。 この研究大倉は、 、福祉用具專

にも、多数の参加を願っていた。 のにも、多数の参加を願っていた。 のにも、多数の参加を願っていた。 のにも、多数の参加を願っていた。 る。

大会概要

日時: 2024 年 6 月 19 日 (水) 会場: 千里ライフサイエンスセンター (大 阪府豊中市新千里東町 1-4-2) 泰オンライ

97月 会テーマ:未来を支える福祉用具サービ の可能性~ご利用者が自分らしく生きで くための福祉用具専門相談員の使命と役

大会長:紀虎季年氏 (関西シルバーサート ス協会理事長) 主催:第5回福祉用具専門相談員研究大会

器征用具収益協会 主なアログラム (予定): 大会長・来賓あ いさつ、適應発表、シンポジウム、向井孝 子・兵庫県立大学大学的教授とよる特別開 派、ランチョンセミナー、老健事業報告、 器心肝具展示、邪教会など 参加中込: 14月1日より、ふくせん、日福 協の WEB サイトで受付開始



取り巻く現状ですが、昨年11月さて、福祉用具専門相談員を 継続的なチェック と見直しが必要

松白草や牛薬原本ナードコ 原発水の製造があった。 なびような経過を表現があった。 なびようなが、製造が出り、かの観光を ないようなが、最初を表現がった。 です。今年は東京連れ、初の大・ を開催した。ようでは東京連れ、初の大・ 会践が下ったます。 会践が下ったます。 なるよが明和しています。

れます。さらにモニタリング時 たケアマネジャーへ交付することが義務化されます。 は、「選定と結果の確認を計画は、「選定と結果の確認を計画とから行い、ケアチームの一員とのに行い、ケアチームの一員とのに行い、ケアチームの一員とのに行い、ケアチームの一員とのにおいて、オウロースのでは、「選定と結果の確認を計画 タリングの実施時期を钥むする ことが連営基準上に位置づけら

本大会が、棚祉田具専門相談 製が場となることを折合してい ます。

など、国際に同じているのか。 本の高めるならには、細折 最新の知識のステルシップが、 不可及び、母女孝や人といき、 研究などの場合が人となり、 よう人のからなりがません。 までは参加して、他の細折 も関連を行っているのか。 本では参加となるが、当れ をでは参加して、他の細折 も関連を行っているのか。 本では参加となるが、当れ ものからなりがません。 までは参加となるが、当れ ものからなりがません。 までは参加となるが、当れ ものからなりがよりない。 までは多かしているのか。 までは多かしているのか。 までは多かしているのか。 までは多かしているのか。 までは多かしているのか。 また ものをとしているのか。 また ものをとしているので、 ものをとしているので、 また ものをとしているので、 また ものをとしているので、 ものをとしているので、 ものをとしているので、 ものをとしているので、 もので、 もので もので、 もので、 もので もので

シルバー産業新聞 2024 年 3 月 10 日号

福祉用具専門相談員研究大 会開催

うのか。

医師やリハ職

回の福祉用具専門相談員 粭協会は6月19日、第5 員協会と日本福祉用具供 全国福祉用具專門相談 するどいわれている。 体でも約2万5千人不足 材は非常に不足すると見 込まれており、大阪府全

考える。

性」。大会員を務める関西 福祉用具サービスの可能 研究大会を大阪府豊中市 シルバーサービス協会の アーマは「未来を支える で開催する。節目の5回 は初の地方開催となる。 えたときに、まず事故の 具の導入が重要だ。 生活を送るために福祉用 ない安心・安全・快適な や障害者の自立支援を考 そして、人材不足の中 そうした状況で高齢者

がら研鑽する場にしたい の専門相談員が交流しな 配虎孝年理事長は「多く て生産性を向上させるこ ボット、福祉用具を便 で住環境の改善や介護 福祉用具専門相談

記虎大会長

来年の2025年には

*

超える。このため介護人

上の高齢者が1千万人を になり、35年には85歳以 団塊の世代が後期高齢者

記虎孝年大会長に聞く 能性を考える

行うのがいいか、福祉用 具をレンタルするのか買 復期高齢の利用者も増え モニタリングはいつ 子教授を講師にお招きし、 県立大学大学院の筒井孝 機能の変化に配慮した福 **高齢者の身体機能や認知**

を確認し必要があればケ タリングも義務付けられ やサービス担当者会議で 説明を行い、医師の意見 ど、これまで以上に協働 た。ケアマネもその結果 相談員には定期的なモニ 提案する仕組みで、専門 の協議を踏まえて用具を アプランの変更をするな が求められている。 、疾患を抱える なった。特別講演は兵庫 年より増えて48演題と 思いを込めている。 相談員による適合選定の を通じて、福祉用具専門 を追加した。連携・恊働 仕組みを構築するという に向けた福祉用具の取組 科学的根拠に基づく未来 全体の発表演題数は

が導入された。利用者に 具に貸与・販売の選択制 員に期待される役割だと 今年4月からは福祉用 選定することが必要だ。 ながる可能性があると思 より良い選定や利用につ

こうした考え方から今

発表のテーマに、新たに 回の研究大会では、口述

に向き合って支援してい 話しいただく。 日々1人ひどりの利用者 福祉用具専門相談員は、

性向上につなげる評価シ ことで事故を防ぎ、生産 ステムの構築についてお 祉用具を選択・利用する が大勢いる。研究大会は オンライン参加も可能だ 全国にも同じ仲間

がら科学的根拠をもって

ヘルパーなどと協議しな

Q が、リアルで集まって、 らの自己研鑽は励みにな 相談員同士で交流しなが 、得られるものも多い

【第5回福祉用具専門相談員研究大会

▽ 2024 年 6 月 19 日 (水) 午前 10 時~午後 5 時 40 分 ▽千里ライフサイエンスセンター (大阪府豊中市) ▽大会テーマ: 「未来を支える福祉用具サービスの可能

性~ご利用者が自分らしく生きていくための福祉用具 専門相談員の使命と役割~」

▽特別講演「福祉用具の利用支援、評価システムの構築」 講師:筒井孝子氏(兵庫県立大学大学院教授) ランチョンセミナー

①「介護保険における自立支援の考え方」講師:成瀬 文博氏(エブリハ代表取締役)

②「新時代に求められる福祉用具専門相談員のモニタ リング」講師:長倉寿子氏(兵庫県立リハビリテ ション中央病院教育・連携担当部長)

①地域・多職種連携・事業所の取組②福祉 用具安全利用に向けた取組③科学的根拠に基づく未来 など に向けた福祉用具の取組

発表演題のまとめと今後の展望 ▽シンポジウム

シルバー新報 2024 年 6 月 7 日号

門性向上に 重な機会に

つなが

第5回全国福祉用具専門相談員研究大会 6月19日に初の大阪開催

テーマ① 地域・多職種連携・事業所の取組

しく、本人はストレス で入れるよう、P 「監接 が避害る一茂った」と、の名とシャリーチラテル 中本でもは多数の名。 大阪内内の何なショーを決断した。 大阪内の何なショーを決断した。 東京をおないる。 「おんれに、 東京をおないる。 「おんれに、 東京をおないる。 大阪人力でした。 大阪の生に関大の生を 大阪の生に関大の生を 大阪の生に関大の生を 大阪の生を 大阪の生に 大阪の生と 大阪の生と

テーマ⑤ 効果的な福祉用具の利用促進・福祉用具メーカーとの連携・協働

50代女性の一人暮らし ウィズ 草木沙織さん 生活全般含め見守る

家族の願い叶えたリ

緒に過ごしたい」

相澤 也さん

記虎孝年大会長 (関西シルバーサービス協会理事長)

具資与・販売の選択制が 発表が展開される。 福祉用具計ービスの取 棚を担う専門相談員が集 まり、日との取り組次を まり、日との取り組次を まり、日との取り組次を 大で、15十かあり、これ までよりも特を増やし た。5テーマ・48両関の

導入され、その業務プロ の世代がすべて機関高齢 となっはかマーネシャー 者となり それが大に となっはかマーネシャー 者となり それが大に となっはかマーネシャー 者となり それが大に となっていく一々 埋業を行い、瞬時に 後、在子城を一へがごっ 埋業を行い、瞬時に 後、在子城を一へがごっ 中で記り進力つる機響 へとうながっていく一で (本) られている。 を開発している。 との機能だする場合と この大田上記を行 の 機材付けられるなく、福 る、部部間貫サーレスに では、日本日東田村銀門は、その 地方ののの は、1 世月東田村銀門は、その 一次公中により の 町間に発表地し、その エライドと自動さいた たらかとならの田本とり 関係 なり付いたっ にからたらならば絶える。 たに向きうきったけと かっ かっ

テーマ③ 経験3年未満相談員の福祉用具導入事例



竹原優里奈さん

門相談員の実践や知見、調査結果を発表する。

本特集では、

登壇者へ見どしろや意気込みを事前インタビュー。また記虎学年大会

早食い解消 会事姿勢改善-

日程 2024年6月19日(水)







語化及び定量化による評価の今~」(筒井孝子・

参加申込

◆全5テーマでの口述発表・シンボジウム ◆特別講演「福祉用具の利用文理、評価システ ムの構築~介護場面の画像認識及び暗熱知の言



テーマ科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組

輪がひろがる

フランスペッド 玉井春貴さん 根拠立てた説明

シルバー産業新聞 2024 年 6 月 10 日号

地・オンライン合わせて ジウムなどが行われ、現 サービスの可能性」。多 れた。今年度のテーマは 豊中市の千里ライフサイ の構築」では、 利用支援、評価システム 題での口述発表やシンポ 全利用など6テーマ48演 職種連携や福祉用具の安 エンスセンターで開催さ -300人以上が参加。 **天会長)が19日、大阪府** 談員研究大会(記虎孝年 〈学大学院社会科学研究 未来を支える福祉用具 特別講演「福祉用具の 第5回福祉用具専門相 兵庫県立

具は利用者 問診表 祉用 O)

現場の知恵の ス化を提起 福祉用具専門相談員研究大

講演する筒井教授



利用者の情報をデータ ベース化し、現場の知恵 を型化することを提起し た。具体的には、 ▽見守 うに都道府県が中心と として横断的に使えるよ なってまとめるべきとし

> 入による外出活動の拡大 して、▽電動車いすの

の役割として、介護サー

ビスを受ける利用者の問

壇。これからの福祉用具 科の筒井孝子教授が登

援機器などの機器から り機器▽車いす▽排泄支

性と効果を評価し、

利用

者の生活の質の向上に貢

部長は、

福祉用具の安全

診票となることを挙げ、

研究などオープンデータ

あったと総括。

具体例と

見を提供する発表が多く 献するための実践的な知

をまとめ、医療・介護 利用状況や事故発生状況

を務めた6人が登壇し、 述発表で各テーマの座長 野木孝二副大会長と、 口述発表の総括が行われ シンポジウムでは、

動などを挙げた。 ディングシートの普及活 いた住環境整備▽スライ ・転倒予防スケールを用

長倉寿子教育・連携担当 兵庫県社会福祉事業団の の取組」の座長を務めた く未来に向けた福祉用具 た。「科学的根拠に基づ 知識も必要と強調した。 談員に今後求められる役 割として、メンテナンス に進めるため介護の実務 なく、多職種協働をさら 能力や種類の知識だけで また、福祉用具専門

シルバー新報 2024年6月28日号

介護が 継続して開催されていく

て、今後ますます発展しいに研鑽していく場とし

口述発表②

トータルアプローチ」「義肢装具・福祉用具の

ができ、骨折を繰り返す

口述発表⑤

になっ ことなく生活できるよう

来年には団塊の世代が 研究大会は発表を軸に石たしていく立場になっ たす役割がより明確に

に発生した能登半島地震

販売の選択制が導入され ら多くの応募があり、昨険改正で、福祉用具賞与・ 関西を中心に30社以上か

役割より明確に医介連携の中で専

記虎孝年大会長

一介連携の中で専門相談員の

11人の計1317人が参加、過去最多となった。大会テーマは「未来を祉用具専門相談員研究大会」が開催された。会場406人・オンライン9

口述発表①

高齢化すすむ

香港 あ

第5回福祉用具専門相談員研究大会 in 大阪

過去最多1317人参加「未来を支える福祉用具サービス」へ高め合う場に

特別講演 兵庫県立大学大学院 筒井孝子氏 退院前カンファで用具提案を

次回は来年6月19日 東京で開催



所能される。 次回大会長の日本福 祉用具供給協会・小野 木孝二理事長が宣言し

| 岡本さんは小回りの利く の希望を叶えた岡本氏
| の希望を叶えた岡本氏
| の希望を叶えた岡本氏
| の希望を叶えた岡本氏
| の希望を叶えた岡本氏

で情あった。

め、A市のケアマネに福

福祉用具や住宅改修の事 a 定期的な情報交換会を実 と

マリー。疾患など心身状 役が退院サマリーや看護サが退院サマリーや看護サが退院サマリーや看護サ

(平成9年11月5日第3種郵便物認可)

門相談員への道」と題し、

力の低下が著しく、 式車いすを使ってい

転倒も確認できた。 行能

で自走操作ができること

率向上と社員育成を目指

齢化率は38・1%と全国 また、秋田県全体の高 トップであり、45年には

成功事例を学び、

意見を

高 効果的に伝える能力が向 は、集・分析し、業務の課題 は、集・分析し、業務の課題 は、実・分析し、業務の課題

福祉用具専門相談員、患者の状況が把握でき、医療・八歳事業所が続け、 は、提展的カンテァレンる。福祉用具専門相談員、四大流で。この中に福祉 は、提展的方とアテレンスの、福祉用具専門相談員、四大流で。この中に福祉 で、近年復帰後にとってもしの看後必要、用具業所が入会ととが、 の源社用具専用が定意し、アレンスの出席で、必 もう1点。安定福祉 を述べる場面が増えてき、要な福祉用なが推測でき、阻力業所が入会とが、 る複雑環境の整備に意見、ファレンスの出席で、必 もう1点。安定福祉 を述べる場面が増えてき、要な福祉用なが推測でき、用具を雇用するだめの福・ 「信頼される福祉用具専 ションの岡本直樹氏は、

の実現めざして

式車いすの導入を検討。

口述発表⑥

上と社員育成への取り組み」

「福祉用具サービス導入率向

エリア分析で成果を

自動車での通院用に介助

でき、さらに本人が室内

C 低は、データを活用した 低は、データを活用した

今後は、病院と地域の 口述発表③

と、内訳として、A|案できる力だと思う。退看護必要度の総得点|医療・介護の多職種に提 点は専門的な看 | 院前カンファレンスに内訳として、A | 案できる力だと思う。日本 「車いすを自操したい」

ために手すりや補高便座に加え、起居動作補助の

骨折によりコルセットを 整を行った。また、圧迫 ルトを適切に締めること 整を行った。また、圧迫 ルトを適切に締めること また、コルセットのベ 方法を再説明し、歩行器 勢が改善して歩行距離が 用具サービスのメリット着用する利用者には装着 | 持型歩行器により歩行姿 | 装具会社が提供する福祉 変更した上で、歩行器や利用者には短下肢装具を 上して自身で外出可能に安心感を提供できることが確認された。 ルに延長した。手すりや

一必要があると報告した。 し、継続的に提案を行う

大実施した。また、計測デー - 集・分析をすることで、一 や離床情報のデータ収 客観と主観の両面から検 バイスを使って操作履歴 セルインデックスなどに 13社1-7事業 、用性を示した発表は会場 四注目を集めた。 の注目を集めた。 き、統計的手法により有 これまでも経験則や個

るのは、導入後にも関与 関わり方として期待され 福祉用具専門相談員の

特殊寝台の有用性調査 117事業所の協力で り、収集データでも背ののでもできません。 ると「寝返り」8割、「起 結果は、全介護度で見 度調整機能は9割、高さ () まったか 実際に使って と違った」とギャップを () 実際に使って 果を発揮・実感できる「定 お セスで一部の介護スタッとについて発表した。 単入したが定着しな がった事例の特徴とし で、導入決定までのプロ でのプロ 「導入」から、機能と効 感じる介護スタッフが多 介護ロボットによる業務 る(期待されている) 口述発表 2 【福祉用具安全利用に向けた取組】

阪府、関係団 業者などの協 業者などの協 大を得て開催 に至ったこと に感謝申し上

4年度の介護保 中で、生産年齢人口は減 会保障費が増大していく 000万人を超える見込

今大会の口述発表は、

高齢化率は14・2%から

の福津用泉域中州総裁の使かえ物で、ままれており出分のして生まていったのでは、 とが日頃の取り組入を発表、5イーマ・全は関係の表表や専門家による構造などを推進しているので、全面が「発来」にで、中国が「発来」には中川総裁「近から来まった時間が終えった。 選びな」を推しているでは、100円の対象が表現しまった。 質向上に向けて、日本だ 向けることの重要性に着現地ではの現状や取り組みに目を調査した。 けでなく海外の高齢社会 高齢者サービスの現状を ソー 高齢化の進む香港の高 当人口は、2013年に

- センターベースのサー 告した。 は、研鑽を続けたいと報じたの負担で地域ケア やサービスにも目を呼ばれる。 に、研鑽を続けたいと報 地域が離り、上に利用券割の重要性を背軽能し、す、外比には近所の人の、また、香煙に流輸者 けるケアネシャーの役 田洋が歩なけれなどう、また、香煙に流輸者 けるケアネシャーの役 田洋が歩なけれなどう、また、香煙に流輸者 はるケアネシャーの役 田洋が歩なけれなどう、また、香煙に流輸者 と 人メイドによる支援を受しジャーが中心となる多職 女性は、独居で人メイドによる支援を受しジャーが中心となる多職 女性は、独居で の参加を通じて、香港の 高齢者が利用する場合、 イベント「GIES」へ これらのサービスを 近くが自宅で家族や外国 現地では高齢者の9割サービスを選択するが、 への訪問、福祉機器展示「が提供されている。 やサービスにも目を向

| 日本のようにケアマネ | 脊柱管狭窄症などを患う | サービスを選択するが、 変形性股関節症や腹部 がった事例を発表 独居で頼れる親

L・QOL低下を防ぐた 閉じこもりによるAD でうつ状態の判定だった にが、まず小型電動カート にある。 副割るため、老年明うつ病」 が開大度(CDS 15)を 無用いて精神理の多変化を 無関いて精神理の多変化を はど、つう領度合いが低い よど、つう何度合いが低い いと利定されるスクリー な性の場合、電動車い を性の場合、電動車い 2の状態を維持できてい

鎌谷さんは導入効果を で、4年後の今も要支援が自立しGDSは1点と 動車いすに変更。買い物 導入3年後には、自分となった。 内環境などを確認の 囲が拡がり疎遠だった知 にもなり、導入3カ月後

口述発表④ 評価尺度使 って電動車いす 車いすの選定・導入議の上、鎌谷さんは

DSは8点とやや改善し

隆 たかつき FJC つながり 福祉用具などを活用した幸齢住宅への改修計画 て (安全・安心+心地良い住空間をつくる) 介抑

○ 50・1-∞に達すると予測。 地域での安く感のある介 に護学社員の専門性向上 でに登業社員の専門性向上 でに対象社員の専門性向上 でに対象社員の専門性向上 でに対象社員の専門性向上 でに対象社員の専門性向上 でに対象社員の専門性向上 でに対象社員の専門性向上 では対象社員の専門性向上 では対象社員の専門性向上 では対象社員の専門性向上 では対象社員の専門性向上 では対象社員の専門性向上 では対象社員の

一することで、強みや弱み

ヤサカ	福祉用具導入による住環境整備の現状と課題
ヤマシタ	外スロープを用いた外出支援(レンタル品設置後、介 護保険での住宅改修と自治体支援事業による費用を抑 えた工事の提案)
フランスベッド	がん末期患者への短期間における福祉用具導入での住 環境整備
ウィズ	リハビリから体や心の緩和へ繋げる福祉用具の事例
ランダルコーポレーション	信頼される福祉用具専門相談員への道
かくの木	利用者の望む在宅生活を支えるうえで大切なこと (生きていく上で重要な食事の環境整備の大切さ、多職 種連携の必要性)
エイジライフ	利用者の思いと自立した生活を支える福祉用具 (生きるから活きるへ、点から線へ、)
	ヤマシタ フランスペッド ウィズ ランダルコーボレーション かくの木

発表		所属	演題 (副題)
光本	健太	ヤマシタ	福祉用具と多職種連携による状態変化に合わせた環境整備
櫻田	諭	サンメディカル	左大腿部切断後、在宅復帰に向けたチームアプローチ (利用者の望む自立維持への支援)
	雄介 慎也	エイジライフ	地域包括ケアシステムの中での地域連携と福祉用具専 門相談員の在り方
樋口:	琉三	川村義肢	介護保険対象者への補装具としての電動車椅子製作事例
佐藤	翔太	かんきょう	福祉用具サービス導入率向上と社員育成への取り組み
鈴木	佑奈	安心ライフ	退院に伴う居住環境整備の事例
西澤角山実	太郎 可子	スマイルケア	防災福祉まちづくりにおける福祉用具専門相談員が担 う役割について (京都市菊浜学区での取り組みより)
信澤	知輝	フランスベッド	今後増加が見込まれる、認知症状のある地域住民を守 るための徘徊対策模擬訓練と福祉用具の活用

	氏(スマイルケア 右京営業所所長)	
発表者 (敬称略)	所属	演題 (副題)
熊野 裕也	ひまわり	認知症利用者の歩行器の安全な利用継続における取組 (ADL の維持でご夫婦での生活が継続できるように)
広田 龍磨	石坪	ハンドル形電動車いす利用に伴う潜在リスクの再確認 と開示・周知
栗田 彬斗	ヤマシタ	地域高齢者の介護予防促進事業として地域包括支援センター8箇所にて予防講座を開催 (AI 歩行分析から転倒予防と福祉用具の利用)
石田 恭佑	川村義肢	義肢装具・福祉用具のトータルアプローチ
菅野 真央	同仁社	歩行車をより安全に利用するために
加藤恭汰郎	大黒ヘルスケアサービス	レンタル手すり導入 (高齢者 A 氏の最大 13 本の手すり事例)
則定 学	ウィズ	在宅利用者の電動車いす利用における現状と課題
杉本 考志	ヤマシタ	徘徊感知機器を利用する事による認知症高齢者の自立 支援

	ALLA TIME TO DE CONTINUED TO CONTINUED				
	長者 (5略)	所属	演題 (副題)		
熊野	裕也	ひまわり	認知症利用者の歩行器の安全な利用継続における取組 (ADL の維持でご夫婦での生活が継続できるように)		
広田	龍磨	石坪	ハンドル形電動車いす利用に伴う潜在リスクの再確認 と開示・周知		
栗田	彬斗	ヤマシタ	地域高齢者の介護予防促進事業として地域包括支援センター8箇所にて予防講座を開催 (AI 歩行分析から転倒予防と福祉用具の利用)		
石田	恭佑	川村義肢	義肢装具・福祉用具のトータルアプローチ		
菅野	真央	同仁社	歩行車をより安全に利用するために		
加藤恭汰郎		大黒ヘルスケアサービス	レンタル手すり導入 (高齢者 A 氏の最大 13 本の手すり事例)		
則定	学	ウィズ	在宅利用者の電動車いす利用における現状と課題		
杉本	考志	ヤマシタ	排徊感知機器を利用する事による認知症高齢者の自立 支援		
		•			

口述発表 5 【効果的な福祉用員の利用促進・福祉用具メーカーとの連携・協働】 座長:西山 輝之氏(一般財団法人 JASPEC 事業部部長)				
	長者 弥略)	所属	海題 (副題)	
相澤	一也	かんきょう	「可能な限り最後まで一緒に過ごしたい」、家族の願い に応えた福祉用具の導入	
大橋	強士	ウィードメディカル	認知症を思われている方が在宅生活を継続するための福祉用 具導入 (見守り機能付き徘徊感知機器を利用した在宅支援)	
本田木村	来輝実央	ヤマシタ	ご本人のやりたいことを支える福祉用具と、そのため のトライ&エラー	
鈴木 大河	健介 内涼太	カラーズ	在宅介護の現場の声から生まれた介助型車椅子 COLORS	
巖	英二	パラマウントヘルスケア 総合研究所	要介護高齢者に対する特殊寝台の有用性の調査研究 (アンケートと操作履歴・離在床情報による特殊寝台の 利用実態の調査研究)	
飛澤	良亮	マッスル	テクノロジーを用いた移乗介助における介護者・要介護者の負担軽減に関する一考察(使用実態とその効果)	
田中	悠介	カクイックスウィング	介護ロボット導入から定着において高齢者施設が福祉 用具専門相談員に求めること	
竹本	良平	トップコーポレーション	GPS 付認知症徘徊感知機器の実状	

	「国本条表 1 【地域・多職種連携・事業所の取組】 座長:村山 尚紀氏 (大阪介護支援専門員協会 研修センター部長)				
	5者 9略)	所属	演題 (副題)		
山本	麻未	ライフ・テクノサービス	災害時における福祉用具の必要性 (名張市社会福祉協議会による通所介護事業所の垂直避難訓練を通して)		
今井	儀	ジェー・シー・アイ	福祉用具× SDGs (福祉用具をハブに、地域・行政・ 事業所 三方良しを目指して)		
勝田田	由美子	ワイズ住環境研究所	福祉用具専門相談員に対する福祉住環境整備研修にお けるスーパービジョンの試み		
岩本	#Z-	アール医療専門職大学	介護保険利用者に対する福祉用具貸与サービスの導入 に関する現状と課題-介護支援専門員を対象としたア ンケート調査-		
上村	昌久	川村義肢	車椅子着座姿勢における不良座位姿勢の現状と課題		
草木	沙織	ウィズ	脳梗塞の後遺症と向き合いながら、一人暮らし新生活 に向けたチームアプローチ		
中馬	季樹	カクイックスウィング	日本と香港の高齢社会事情について		
太田	樹生	トーカイ	40代左半身麻痺利用者に対する車いす移動、歩行支援 に向けた取り組み (課題はリハビリテーション職との 連携で解決)		

口述發表 4

【科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組】 座長:長倉 寿子氏 (兵庫県立リハビリテーション中央病院 教育・連携担当部長)					
発表者 (敬称略)	所属	演題 (副題)			
鎌谷 勝輝	トーカイ	要支援認定高齢者への電動車いす導入による自立支援・ QOL向上・重度化抑制に繋がった取り組み			
玉井 春貴	フランスベッド	転倒予防に向けた評価スケールの活用と住環境整備の 提案進行性核上性麻痺と向き合う家族の支援			
岡田 佑哉	トーカイ	特殊寝台導入と寝室変更が睡眠に与える影響の考察			
佐藤 碧美 水越 良行	ヤマシタ	「滑らせる介護」の普及活動			
大田 健介福山 千秋	カクイックスウィング	理学療法士と福祉用具専門相談員の連携による移動支援のモニタリングの実践 (歩行能力を数値化したことによる歩行器の適合性の見える化)			
小島みさお	国際医療福祉大学 大学: 東京蘇康長起療センター研究所	福祉用具専門相談員における介護ロボットの積極的関 与意向			
丸岡 達矢	ポート・リハビリサービス	高齢者施設における自動計測機能付きポータブルトイ レ活用の検証			
角南 拓磨	日本基準寝具	過疎地域で挑む、「人材」を確保し、「介護」を維持するための取組みについて			

シルバー産業新聞 2024 年 7 月 10 日号





特集●これからの福祉・介護に向けて一わたしたちの思い

福祉用具専門相談員研究大会に参加して感じたこと、そして今後に期待すること

お茶の水ケアサービス学院 神 智淳

令和6年6月19日に第5回福祉用具専門相 談員研究大会が大阪で開催されました。大阪 での開催は初めてで、会場に集まった方が406 人(前年より46名増)、ZOOMによるオンライ ン参加者が912人と盛大な大会となりました。

私も、いろいろな方の発表を聞ける、大変貴 重な機会になりました。

研究大会概要

○特別講演

兵庫県立大学大学院社会科学研究科教授の 筒井孝子先生の特別講演は、「福祉用具の利用 支援、評価システムの構築」のテーマで、介護 事故防止に関する日本の施策の現状と課題、介 護事故に関する分析とデータベースの作成方 法、データベースの有用性と実用化までの課題 について話されました。

福祉用具専門相談員が多職種と看護に関する情報を共有するには「重症度、医療・看護必要度」などの評価表を用いることが有用であることや、属人的である「匠の技術」を「型化」することの重要性を説かれました。特に、介護事故をデータ化し、そのデータは国がまとめるのではなく、地域で蓄積及び共有したほうが、タイムリーに情報を活かせるとの視点はとても斬新でした。これから、利用者に関わる様々な情報を取り扱っていかなければならない業界で、私自身としても、どのように情報を整理し分析していかなければならないかを改めて考えさせられる時間でした。

○口述発表

「地域・多職種連携・事業所の取組」、「福祉 用具安全利用に向けた取組」、「経験3年未満 相談員の福祉用具導入事例」、「科学的根拠に 基づく未来に向けた福祉用具の取組」、「効果 的な福祉用具の利用促進・福祉用具メーカーと の連携・協働」、「地域・多職種連携・事業所 の取組」の6つのテーマに沿って3つの会場で 発表が進められました。

全部の発表を聞くことはできませんでした が、私が聞いたなかで印象に残った発表につい て、個人的視点も含め記述します。

「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例」 の会場での、「外スロープを用いた外出支援」 においては、簡易スロープ(持ち運びができる スロープ) での外出はスロープを設置したり片 づけたりするなどの介護負担が大きいため、住 宅改修によるスロープの工事を行った事例でし た。経験年数が3年未満と短いため、事例発表 にとどまりましたが、方向性はとても良かった です。今後は、簡易スロープの時と住宅改修後 の外出頻度や家族の介護負担感(例えばZarit の介護負担尺度)を比較するなどすると、量的 研究として福祉用具や住宅改修の外出支援の 効果のエビデンスとなりうる研究になると思い ました(なお、量的研究のみが素晴らしい訳で はなく、質的研究もとても重要であることを付 け加えておきます)。

「科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組」の会場での、「要支援認定高齢者への電動車いす導入による自立支援・QOL向上・



写真1 介護ロボットの定着に関する発表

重度化抑制に繋がった取り組み」において、電動車いすの導入前と導入後において、GDS15 (老年期うつ病評価尺度)にて前後比較をしていました。外出などによる社会参加のサポートはうつ病の発生抑制に影響を与えることが知られています。今回は1事例でしたが、対象者数を増やすことで、研究結果の信頼性が増すと考えられます。さらに、QOLの代表的なスケールとして、PGCモラールスケールやSF36などを使うのも良いかもしれません。なにより、既にエビデンスの確立されたスケールを使い、統計処理を通して発表される日がそう遠くないことを感じさせる発表でした。

「効果的な福祉用具の利用促進・福祉用具メーカーとの連携・協働」の会場での、「介護ロボット導入から定着において高齢者施設が福祉用具専門相談員に求めること」において、介護ロボットを高齢者施設に導入するプロセスについて、導入前から定着に至るまで業務や職員のニーズがどう変化したのかをアンケート調査を通して把握するとともに、福祉用具専門相談員が導入前から定着までのプロセスにおいてどのような支援が必要であるかが発表されました(写真1)。ここ最近、移乗リフトや移乗ボード

などを導入する施設が多くありますが、ある一 定の期間が経過すると、導入された福祉用具 が使用されなくなるケースが多々あるのが、私 は気になっていました。その原因として、費用 等の影響で専門家の支援に限界があることや現 場のリーダー層等の現場への関りが手薄になっ てしまうことが考えられます。福祉用具専門相 談員が継続的に関わることができれば、その原 因を解決するための極めて重要な役割を担える かもしれません。特に、令和6年度の制度改正 において、生産性の向上が求められるなかで、 介護ロボットの活用は不可欠です。しかし、た だ介護ロボットを導入すればよいというもので はなく、介護ロボットを使いこなすためのオペ レーション(運用)を含むソフト面での支援は さらに重要です。オペレーションを含めたソフ ト面からのアプローチは長期的なサポートが必 要であり、それを担えるのが全国津々浦々で活 動する福祉用具専門相談員ではないかと気づ かされる発表でした。余談ですが、私も令和6 年度より、ある県の介護現場革新会議(介護現 場の生産性向上の推進を図る会議)の委員とし て関わりますが、福祉用具専門相談員の重要な 役割が増えることを感じさせた発表でした。





写真2 特殊寝台の有用性の発表

また、同じ会場での「要介護高齢者に対する特殊寝台の有用性の調査研究」において、特殊寝台の操作履歴と離在床のデータを「眠りスキャン」を通して取得し、特殊寝台の使用状況や効果、課題の有無について統計的手法を用いて分析していました(写真 2)。「寝返り」で78%、「起き上がり」で89%、「立ち上がり」で88%が特殊寝台の効果を感じているとの発表でした。317件のデータを介護度別、疾患別にも分析しており、完成度の高い研究発表でした。

統計処理及び分析において、他の福祉用具 専門相談員も参考にすると良いかもしれません。

○シンポジウム

シンポジウムでは、各発表会場を取り仕切った座長が担当する口述発表を総括しました(写真3)。発表会場が3か所、テーマが6つもあるため、全部に参加することは物理的に不可能で、このシンポジウムでの総括は参加者にはありがたいものでした。

今後の研究大会に期待すること

研究大会の参加者は、他の発表者から新し い気づきを得たり、学んだりする貴重な機会と なります。また、発表者は、研究の立案から発 表に至るプロセスを通して、自分の取り組みを 見つめなおし、理論的な思考のもと、その取り 組み(活動)が及ぼす影響(成果)を客観的 な根拠に基づいて分析し伝えることになりま す。発表者にとって、研究のプロセスを通して 得る知見は専門性を高める上でもとても重要で す。そして、研究者同士の関係性を深めたりす る目的もあります。もしかすると、将来的に共 同して研究することになるかもしれません。一 方、今回参加してみて感じたのは、参加者から の質問が思ったより少なかったことです。「質 問」をするには、質問者にはそれなりの勉強が 必要となってきます。また、発表者にも「気づ き」を与えます。研究大会を通して、発表者及 び参加者が相互に刺激しあえることは、専門性 を高めるうえでとても重要です。質問が飛び交 う研究大会になることを期待しています。

研究大会に参加して、 自分の今後について考える

福祉用具専門相談員の皆様が忙しいなか、 貴重な時間を割いて、研究を発表されたことは 何より素晴らしいことだと感じます。 おそら く、今後、研究の質を高めていく過程で、各研 究における調査の対象者(利用者)数を増やし ていくことになると思います。調査対象者数が 増えれば、統計手法を用いて、エビデンスを高 めることができます。なお、研究の目的に沿っ た統計手法を活用することは、とても高度な知 業が求められます。一般的に統計手法等は大 学院でないと学べないのが現状であり、多忙を 極める福祉用具専門相談員にとって、大学院に 行くのは簡単なことではありません。大学院に 行かなくても統計を学べる環境は、研究の質を 高めるうえで肝となり、とても大切です。

私の置かれた環境を踏まえ、今後何ができるのかなと考えました。大学院に行かずとも、統計手法を学べる環境づくりが大切だと感じ、eラーニングで統計を学べるコンテンツ作りに取



写真3 シンポジウムの様子

り掛かり始めました。皆様の研究の後方支援が 「少しでもできたらよいな」と思っています。

最後に

多くの研究の発表を聞き、福祉用具専門相談 員が福祉用具の有用性等を研究し、自らの専門 性を確立しようとしだしたことを実感しまし た。発表に際して大変な苦労をされた発表者 及び研究の協力者、そして発表大会に参加さ れた方々に心より敬意を表したいと思います。 また、一般社団法人全国福祉用具専門相談員 協会、一般社団法人日本福祉用具供給協会、 研究大会の実行委員の皆様のご尽力により、こ のような素晴らしい機会が提供されたのだと思 います。

皆様の専門性の更なる確立とその専門性を礎 としたご発展を心から願っております。

月刊福祉介護テクノプラスの 休刊についての思い

本誌の編集委員は委員長の市川洌先生をはじめ、大変著名な先生ばかりでしたので、編集委員のお話をいただいたときに、正直務まるのか不安でいっぱいでした。それにもかかわらず皆

様に暖かく迎えていただき、なんとか今まで続けることができました。そして、日本の保健・医療・福祉の業界をリードする様々な先生にご執筆いただけたこと、感謝の言葉しか見当たりません。今までご執筆いただいた貴重な原稿は切れ味が鋭いだけではなく、普遍的な内容でもあるとともに諸先生方々の知見が詰まっており、今後も色あせることはないはずです。それらの貴重な原稿を、いつまでも閲覧できる環境がつくられることを願っております。日本工業出版株式会社の山口康様にはいつも無理なお願いばかりしていましたが、それにもかかわらず快くお受入れいただき、感謝申し上げます。

そして、何よりも、長年にわたり本誌をご愛 読いただきました皆様、スポンサーの企業の皆 様のお力添えがあったからこそ、本誌の発行が できました。本当にありがとうございました。 皆様とまたどこかでお会いできることを楽しみ にして、本稿の結びとさせていただきます。

●執筆者

神 智淳

お茶の水ケアサービス学院

学院長

月刊「福祉介護テクノプラス」編集委員

第5回福祉用具専門相談員研究大会 大会組織

大会長 記虎 孝年 (公益社団法人関西シルバーサービス協会理事長)

副大会長 小野木 孝二(一般社団法人日本福祉用具供給協会理事長)

大会顧問 幸田 正孝 (元 厚生省事務次官)

山内 繁 (NPO 支援技術開発機構理事長)

第5回福祉用具専門相談員研究大会 実行委員会

委員長 鈴木 みどり (株式会社トップコーポレーション)

倫理委員会委員長 白澤 政和 (国際医療福祉大学大学院)

查読委員会委員長 東畠 弘子 (国際医療福祉大学大学院)

委員 高木 克彦 (川村義肢株式会社)

浦野 徳也 (株式会社ポート・リハビリサービス)

淵上 敬史 (株式会社ウィズ)

橘田 直樹 (株式会社ヤマシタ)

平田 拓 (フランスベッド株式会社)

冨澤 泰輔 (株式会社トーカイ)

池本 和樹 (株式会社トーカイ)

福島 伴彦 (株式会社カクイックスウィング)

川口 隆 (全国福祉用具専門相談員協会)

中沢 淳 (全国福祉用具専門相談員協会)

柳田 磨利子(全国福祉用具専門相談員協会)

伊藤 広成 (日本福祉用具供給協会)

淡路 陽子 (日本福祉用具供給協会)

運営協力 小林 毅 (日本医療科学大学)

顧問 酒井 博人 (綜合メディカル株式会社)

次回告知

第6回 福祉用具専門相談員研究大会

介護人材不足を補う福祉用具サービスの役割 ~福祉用具の能力を最大限引き出す相談員のスキルアップ~

2025年6月19日(木)開催

大会長 小野木 孝二

一般社団法人日本福祉用具供給協会 理事長



会場

浅草橋ヒューリックホール

東京都台東区浅草橋 1 - 22 - 16 https://hulic-hall.com